

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



お知らせ

田崎さんありがとう! 美味しかったよ!ほかほかの焼きいも

※十二月十四日（金）終業式。「園長講話」がまたやってきました（汗）。一方的にお話しする「講話」はそろそろマンネリになりましたので、今回は「授業」みたいな感じで行います。絵本を使ったり、プチっとワークショップを取り入れたりして・・・教育改革のキーワード「アクティブラーニング」的に・・・久しぶりに教材研究し、指導案も立てて臨んでみようと思えます。お家の方々には子どもにもなった気分です。楽しんでいただければと思います。つまらなかつたら、寝ていただいてもオーケー。だってそれは授業者の力不足なのですから・・・さあ、自分で自分のハードルを上げることが好きな園長は、今回も精一杯頑張ります!

開始時刻は十時三十分。遅刻はご勘弁を!



●ほっかほっかの焼きいもに一心不乱? 「おいしい?」と聞くと、「おいひい〜!」めったに食べられない本物の焼きいもでした!

●「美味しい焼きいもにな〜れ!」のおまじない



●食べ終わるとすぐに「おかわり〜!」とソロソロ・・・「う〜ん、お弁当食べ終わったらにしようね!」

園長、「僕キセ」に学ぶ?

「園長便り」にテレビドラマの感想はいかがなものか・・・なんてご批判は承知の上で・・・略して「僕キセ」なるドラマ。主人公は、動物の生態学を教える変わり者の大学講師。彼の魅力に真っ先に惹かれるのが小学生の男の子虹一君。母親は、虹一君のどこか他の子と違う息子を心配し勉強に追い立てる。主人公に対して、息子のできない事をあげつらう母親に、「ぼくは虹一君のすごいところを百個言えます。」ときっぱり。そして指を折りながら言い始める。「虹一君は、朝自分でおきます。歯磨きをします。朝ご飯を食べます。」と・・・そしてもう一人、ネガティブな女性に対して、励ましたいのか、同じように百個すごいところを言おうとした場面。「それって誰にでもできることなんじゃないんですか?」女性が言うのと、主人公は「誰にでもできることは、できてもすぐくれないんですか?」と逆に



私たちは、子どもが生まれてくれたことを喜び、立てたことを褒め、歩けたことに感動したはずだった・・・なのにいつのまにか、人と比べ、できない事ばかりを数えるようになってしまふ。精子と卵子が出合う確率だけでも2億分の1。その出会いを繰り返して生まれた自分。子育てに疲れ一度は自分を捨けてた母親に対し、「僕が今ここにいることは奇跡」であり、その奇跡を起してくれたことに感謝する主人公の言葉には心打たれる。ドラマのタイトルがようやく腑に落ちた。

我が子が、自分のもとに生まれてきたのは「奇跡」。そして今もちゃんと生きていて、自分を親にしてくれていることに「感謝」。あとは本当に好きなことやしたいことを見つけて、命いっぱい生きていってくれさえすればそれでいいってことだな・・・。視聴率はイマイチだが、奥が深いこのドラマ。DVD化されたら是非見て欲しい作品だ。我が子のすごいところ、百個言えますか?!